

# セマンティック・ディファレンシャル法による臓器提供意思表示と献血に対する イメージの比較

Measurement of the Image for Intention of Organ Donation and Blood Donation

(キーワード: セマンティック・ディファレンシャル, 臓器移植, 臓器提供, 献血)

(KEYWORDS: semantic differential, organ transplantation, organ donation, blood donation)

○今野順\* (横浜市立大学大学院), 長内優樹\*\* (合同会社セカンダリー)

## 1. 問題

内閣府の調査[1]によると, 2013年には世論の約60%が臓器移植に関心があるとの結果を公表している。しかし, 2013年時点で臓器提供意思表示カードや健康保険証, 運転免許証, 臓器移植ネットワークホームページなどで臓器提供の意思表示をしているのは12.6%であり, 自らの判断を決めかねている人は少なくないといえる。このような臓器移植に対する関心が高まっても, 臓器提供の意思表示が行われない現状の心理的背景を解明する必要があるだろう。

厚生労働省(2015)の発表によると脳死下での臓器提供者の平均年齢は46歳であり, 20代以下の臓器提供者は全体の14%である[2]。ドナーの年齢が上がるにつれレシピエントのリスクが上がることを考慮すると10代, 20代の臓器提供の機会を増やすことが重要である。加えて, 運転免許証や健康保険証, マイナンバーカードなど身近に携帯する物で意思表示が出来るようになってきているが, 多くの場合, 臓器移植や意思表示に関する知識を得る機会が少ないと考えられている現状[3]においては, 実際の意思表示にあたる要因のひとつとして, 臓器提供意思表示のイメージを軽視できない。

臓器提供に類似した行動の比較対象として献血が考えられる。臓器提供は寄付や奉仕の援助行動として献血と同じ類型に分けられており[4-5], 身体の一部を提供するという点においても類似した行動であると考えられる。しかし, 献血は年間500万人以上が行っていることを考えれば, 類似した行動ではあるが臓器提供は献血に比べて進んでいるとは言えないだろう。また, 献血も臓器提供と同様に10代, 20代の献血者数は少ない[6]。

そこで本研究では, 10代~20代の年齢層が多い専門学校生を対象に臓器提供意思表示と献血が一般にどのようなイメージを持たれているのかを探ることに焦点をあて, 臓器提供意思表示と献血のイメージの違いを検討する。イメージの測定方法としてOsgood, Suci, & Tannenbaum(1957)によるSemantic Differential Technique (以下SD法)を用いる[7]。

## 2. 目的

専門学校生を対象に, SD法を用いて臓器提供意思表示行動と献血のイメージを測定し, そのプロフィールから臓器提供意思表示と献血の比較を行い, 臓器移植についての認知度の高まりに対して意思表示が行われない現状を理解するための一助

となる資料を得ることを目的とする。

## 3. 方法

### 3.1 調査協力者

関東圏内の医療系の専門学校生80名。

### 3.2 調査時期

2016年6月。

### 3.3 評定用紙

SD法の評定用紙として, Osgood et al. (1957)により重要とされる3種類の形容詞(評価, 力量, 活動)をあらゆる形容詞対を評語として採用した。評語について評価は「立派なーひどい」「役立つー役立たぬ」「よいーわるい」、力量は「大きいー小さい」「力のあるー力のない」「強いー弱い」、活動は「速いー遅い」「騒がしいー静かな」「若いー老いた」のそれぞれ形容詞3対で構成されている。各評語の対の間には5段階の等間隔の目盛を布置し, 予め評定対象語名(臓器提供に関する意思表示, 献血)を印字した。また, 本研究では具体的なイメージが起きやすいように臓器提供ではなく臓器提供意思表示を採用した。

### 3.4 手続き

授業時間内に集団検査として実施した。調査協力者は評定用紙を配布し, 「評定対象語名を見て, 頭に浮かんだ感じを各尺度で評定します。5段階の評定であり, 各評語に対応する短い縦線を○でかこんでください。あまり考え込まずに印象でつけてください。」という教示を評定者に与えた。次いで, 調査協力者は評定者からの質問を受けた後, 回答時に考え込んでしまうことを防ぐために, 約5秒に1対の割合で形容詞対を読み上げていった。全ての形容詞対への評定終了時に再度質問を受け付け終了した。

### 3.5 倫理的配慮

検査実施時にその主旨と参加における任意性およびプライバシーの保護について文章と口頭で説明し, SD法への回答以外の一切の個人情報を収集していない。

## 4. 結果

臓器提供意思表示と献血の各形容詞対について, 左側の評語から右側の評語にむけて(1)(2)... (5)と配点し平均値, 標準偏差および検定を行った(表1)。

結果は臓器提供意思表示と献血の各形容詞対について, 「役

\* Graduate School of Urban Social and Cultural Studies, Yokohama City University, 22-2 Seto, Kanazawa-ku, Yokohama, Kanagawa 236-0027, Japan

\*\* Secondary, LLC 2-2-15-14F Minami-Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0062, Japan.

立つー役立つ」は、臓器提供意思表示のほうが献血より有意に大きく ( $t(79)=2.75, p<.01, d=.42$ ), 「よいーわるい」

( $t(79)=3.51, p<.05, d=.42$ ), 「速いー遅い」( $t(79)=3.52, p<.05, d=.54$ ) についても臓器提供意思表示のほうが献血より有意に大きかった。「立派なーひどい」, 「大きいー小さい」, 「力のあるー力のない」, 「強いー弱い」, 「騒がしいー静かな」, 「若いー老いた」は臓器提供意思表示と献血の間に有意な差は見られなかった。また、3種類の形容詞(評価, 力量, 活動)について、それぞれ得点化し、検定を行った結果、評価は臓器提供意思表示のほうが献血より有意に大きく ( $t(79)=4.16, p<.001, d=.45$ ), 力量は臓器提供意思表示のほうが献血より有意に小さかった ( $t(79)=-2.86, p<.01, d=.36$ )。活動については臓器提供意思表示と献血の間に有意な差は見られなかった。

続いて、表1の平均値をもとにプロファイルを作成した(図1)。

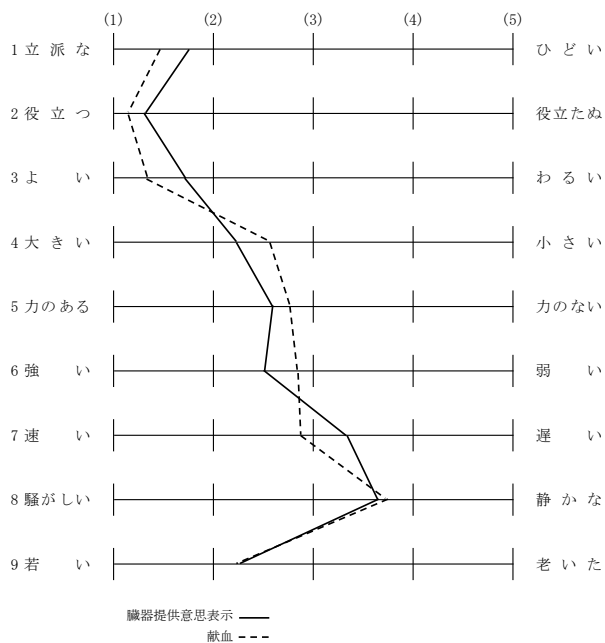


図1 臓器提供意思表示と献血のSD法平均値イメージプロファイル

表1 臓器提供意思表示と献血の平均値, 標準偏差およびt検定の結果

	臓器提供意思表示		献血		t	p	d
	M	SD	M	SD			
評価	1.60	0.49	1.39	0.47	4.16	.000	.45
1 立派な - ひどい	1.76	0.72	1.58	0.73	2.10	.039	.26
2 役立つ - 役立つ	1.34	0.55	1.16	0.40	2.75	.007	.36
3 よい - わるい	1.71	0.73	1.43	0.65	3.51	.001	.42
力量	2.45	0.76	2.74	0.85	-2.86	.005	.36
4 大きい - 小さい	2.24	0.97	2.59	1.09	-2.40	.019	.34
5 力のある - 力のない	2.60	1.05	2.79	1.04	-1.33	.188	.18
6 強い - 弱い	2.53	1.04	2.85	0.96	-2.56	.012	.33
活動	3.13	0.68	2.95	0.57	2.09	.040	.29
7 速い - 遅い	3.45	1.07	2.89	1.01	3.52	.001	.54
8 騒がしい - 静かな	3.65	1.04	3.74	1.06	-0.57	.570	.08
9 若い - 老いた	2.29	1.00	2.23	0.89	0.44	.663	.07

## 5. 考察

本研究の結果から、臓器提供意思表示と献血のイメージについて、評価という観点においては臓器提供意思表示よりも献血のほうが肯定的に捉えていることが考えられ、力量においては献血よりも臓器提供意思表示のほうが肯定的に捉えていることが考えられた。また、活動においては臓器提供意思表示と献血の間に有意な差は見られなかったが、活動を構成する形容詞対の「速いー遅い」は有意な差が見られ、献血のほうが臓器提供意思表示よりも「速いー遅い」については肯定的に捉えていることが考えられた。最後に、臓器提供意思表示と献血のプロファイルの図から双方が似たプロットを示していたが、これが調査協力者の属性の影響によるものか否か検証する必要があるだろう。

## 引用文献

- [1] 内閣府：臓器移植に関する世論調査平成25年8月調査, <http://survey.gov-online.go.jp/h25/h25-zouki/>
- [2] 厚生労働省：脳死下での臓器提供事例に係る検証会議検証のまとめ, <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000037261.html/>
- [3] 今野順, 長内優樹：大学生を対象とした臓器提供意思表示行動に影響を与える心的抵抗に関する研究-SCATによる自由記述回答の質的分析-日本応用心理学会第82回大会発表論文集, p.117, 2015.
- [4] 高木修：順社会的行動のクラスターと行動特性, 年報社会心理学, 23, pp.137-156, 1982.
- [5] 高木修：人を助ける心ー援助行動の社会心理学ー, サイエンス社, 1998.
- [6] 日本赤十字社, 血液事業本部：平成27年血液事業統計資料ー血液事業の現状ー, [http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20160512\\_H27k\\_etsuekijigyonogenjyo.pdf](http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20160512_H27k_etsuekijigyonogenjyo.pdf)
- [7] Osgood, C. E, Suci, C. J, and Tannenbaum, P. H: The measurement of meaning, University of Illinois Press, 1957.